



道後オンセナート2018 制作アーティストに聞きました

4月14日のグランドオープンで発表された作品と、制作アーティストに聞いた作品の楽しみ方をご紹介します。

傾いた風呂椅子

久村 卓さん



設置場所：放生園東側県道沿い (東休憩広場)

道後温泉で見た、風呂椅子が立てかけてある様子を再現

久村さんコメント▶風呂椅子を傷めず長く使うために、ぬれた椅子を早く乾かそうと、人が椅子を斜めに立てかける。日常の中にある、ちょっとした違和感。この作品も、まちの中に自然に溶け込んで、見る人に作品だと気付かれずに素通りされてしまうくらいが理想的です。

鷺の恩返し

浅田 政志さん



設置場所：道後温泉本館1階廊下

浅田さん扮する「鷺太郎」が白鷺伝説などを再現した8連作

浅田さんコメント▶8枚の写真全てに、道後を見守る鳥人間「鷺太郎」が写っているので、楽しみながら鷺太郎を探してみてください。この作品は多くの松山の人たちの協力を得て完成しました。あなたの知っている誰かも、どこかに写っているかもしれません。
※要利用料金

青蓮丸、西へ

松井 智恵さん



設置場所：さち家

道後と大阪をつなぐ架空の旅物語を創作

松井さんコメント▶立っているのがしんどいときもある。上から見下ろすだけでなく、座って視点を下げると、また違って見える。ここでゆっくりくつろいで、日常とは違う時間を過ごしてください。

谷このみの湯

谷 このみさん



設置場所：放生園東側県道沿い (西休憩広場)

温泉に漬かっている人を描いた

谷さんコメント▶ここでの温泉は、この世とあの世の間。鮮やかな色で異世界を表現しました。作品中の登場人物やその背景、状況や会話などを自由に想像してみてください。

融合しよう Let's Fusion

石井 七歩さん



設置場所：放生園東側交差点付近ほか

温泉と人とまちが融合した景色を表現

石井さんコメント▶温泉に入るときは裸になって、服も肩書もなくなって、湯けむりの中ではみんな同じに見えるのが印象的。身構えずに、ひとつ風呂浴びる感覚で作品を楽しんでほしいです。

アニマルハウスin道後

三沢 厚彦さん、舟越 桂さん、小林 正人さん、杉戸 洋さん、浅田 政志さん



設置場所：振鷺亭

三沢さんコメント▶松山に滞在しながら地域で触れたものが作品に影響しています。さまざまな素材を使って作品に振れ幅を持たせました。見る側と見られる側の波長が合えばうれしいです。



▲頭上には参加アーティストの似顔絵が木彫りに

三沢さんと親交の深い4人のアーティストによる共同作品 たくさんの宝物を詰め込んだおもちゃ箱のような空間

湯玉の気配：空気の人

鈴木 康広さん



設置場所：ホテル椿館回廊

湯玉を人・風・空気表現

鈴木さんコメント▶湯玉は「人に偶然の幸せをもたらすお化け」のイメージ。空気は見ることも触れることもできませんが、人の感情にリンクするもの。「空気の人」を通じて湯玉の気配を感じてほしいです。